



第42回「おかねの作文」コンクール

おかねと人

福島県・福島市立信陵中学校 2年 高野 彩佳

私は今まで、お金に対して特に深く考えたことがありませんでした。しかし、最近になってお金に対して不安を抱くようになりました。それは、目に見えないものにも多くのお金がかかっていることを知ったからです。電気、水、そして人との交流、それらは、目に見えない大切なお金です。

私は、こまめに電気を消したり、水を節約したりしてきました。しかしそれでも、電気代などはなかなか減りません。それに、エコ活動や環境のために節電するはずの商品の開発や研究にも、やはりお金がかかっていると聞きました。水も、ただ節約するのではなく、出来るだけ汚染されない状態で排水しなければ、浄化作業に費用も時間もかかります。

文化や科学の発達に伴い、個人の負担する費用も増加し、また、企業の計画、大きく考えれば国家の予算といった私の知らない世界にまで^{かか}関わってくるのではないかと、不安が広がってしまいます。

今のところ、政治家の話を、私は聞きかじり程度ですが、こんな意見を聞いたことがあります。それは、学用品や医薬品、あるいは一般家庭で使われる野菜などの食品に、税をかけるのはどういうものか、ということです。確かに、ノートやペンなどの消費税がなくなれば、私たちのおこづかいも、母のおさいふも今より助かるはずだと思います。薬も税のかからない分、少し高いものでも利用できたら、病気の人、体調のすぐれないときも助かると思います。でも、だからと言って、私たちがノートをムダ遣いして、1冊ですむところを2冊も使っていたら、せっかく社会のルールが変わっても、自分でこわしてしまうことになります。もし、税金のルールが変わったら、私もいっしょに良い方向へ変わるため、自分のルールを決めるべきだと思います。薬もあれもこれもではなく、自分に合うものをよく選んで長く上手に使うべきだと思います。

こうして考えてみると、お金のルールは、政治だけでも自分だけでもなく、みんなまで考えていかなければならない重要なものだと思います。

お金と私たちの関わりを考えているうちに、思い出したことがあります。それ

は、自分のためにお金を使ったときと、だれかのためにお金を使ったときの気分のちがいです。私は、誕生日にほしかった物を買ってもらったとき、とてもうれしかったのを覚えています。でも家族は、私よりももっとうれしそうでした。私も母の日に、おこづかいでエプロンを買ってあげたら、母はとてもよろこんでいました。携帯電話のストラップをあげたときも、すぐにつけて、よろこんでくれました。残りが一つしかない、おいしそうなのは、祖母は自分の分が買えなくても、私の分は買ってくれます。

これはみんな、だれかに思いやりをプレゼントしたときに使ったすてきなお金です。私も、自分で自分のものをおこづかいをためて買うのも楽しいけれど、プレゼントの楽しさや、うれしさは、またいちだんとちがうものだと思います。

よく、近所の人と、家族が話しているのを見ても、「このせつは、どうもお世話になって、ありがとうございました」と、言いながら、小さなお土産をわたしたりしています。ちょっとした気持ちにも、少しお金がかかっていますが、そんなときのお金は、あたたかくて、満足感があるような気がします。だから、人との交流には、ぜいたくなものを買えば良いのではなく、いつもの「ほんの気持ち」という、やさしいお金がとても大切なのです。

私は今回、お金について不安を先に感じて考え出しましたが、実は不安よりも、安心のために必要であること、思いやりのために必要であることが分かりました。これからは、私のまわりで働いているお金があるときは見直して節約したり、逆にぼ金や、プレゼントのために、大事に使えるよう努力していきたいと思います。

毎日使われるお金ですが、どう使うかによって、お金にも命が生まれるのだと、少しうれしくなりました。何となくいつも、さみしそうな樋口一葉の顔が笑っているように見えるのは、気のせいでしょうか……。

